

令和2年度札幌市英語教育改善プラン

小・中・高等学校間の連携・接続を図る

「札幌 CAN-DO スタンドアード」 活用ハンドブック

Five language skills:
Listening
Reading
Spoken Interaction
Spoken Production
Writing

令和3年2月

札幌市教育委員会

目 次

■ハンドブック

	ページ
1 札幌市の「小中一貫した教育」と外国語教育の充実	… 1
2 「札幌 CAN-DO スタンド」とは？	… 1
3 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標策定の経緯	… 2
4 「CAN-DO リスト」を軸とした三つの共有と期待される効果	… 3
5 校種間のつながりを意識した「CAN-DO リスト」の作成のために	… 4
6 校種間の接続を踏まえた「言語活動」	… 5
7 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定の手順	… 6
8 「札幌 CAN-DO スタンド」を参考にした自校「CAN-DO リスト」の作成	… 7
9 パフォーマンステストについて	…12
10 パフォーマンステスト参考資料について	…14
11 ICTの活用について	…15

■資料（別紙）

- 1 札幌 CAN-DO スタンド（全校種 計 10 パターン）
 - ・①小中高つながり編
 - ・②小中つながり編
 - ・③小学校 ・小参考例 ・北光小児童配付用 ・●●小学校
 - ・④中学校 ・中学校例 ・伏見中学生徒配付用
 - ・⑤高等学校
- 2 パフォーマンステスト実践例
 - ・小学校
 - ・中学校
 - ・高等学校

1 札幌市の「小中一貫した教育」と外国語教育の充実

札幌市では、令和2年度、札幌市英語教育改善プランを策定し、小・中・高等学校の児童生徒が英語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、コロナ禍においても重点化を図りながら推進してきました。これまでの英語教育実施状況調査（文部科学省実施）における結果等から、本市では①「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定状況、②英語力を把握するためのパフォーマンステストの実施状況、③英語教育における小中連携の状況に課題があるとし、より一層の充実を図るため、英語教育改善プラン会議にて、本ハンドブックを作成しました。

現在、札幌市では、「小中一貫した教育」として、学校段階間の接続及び発達に応じて、目標や指導内容を明確にするとともに、学びの系統化を図ることで、札幌市の学校教育が目指す子ども像の具現化を目指しています。さらに、義務教育9年間を通じて育成する資質・能力を明確化し、その後の学びに円滑につなぐため、中学校区の小・中学校間（パートナー校間）の情報交流や共有、「学ぶ力」育成プログラム等を活用し、取組の成果と課題を共有しているところです。

外国語活動・外国語科においても、札幌市の「小中一貫した教育」に基づき、小中のパートナー校間で連携したカリキュラムの作成や学習到達目標の設定を行い、小学校までの学習過程や成果を中学校教育に円滑に接続し、更に高等学校での学びへと接続することが期待されます。このような校種間連携を一層充実させることによって、育成すべき資質・能力を児童生徒が確実に身に付けることができるよう、本ハンドブックをご活用ください。

2 「札幌 CAN-DO スタンド」とは？

学習指導要領に基づき、各学校は、児童生徒に求められる英語力の到達目標を「英語を用いて何ができるか」という観点で、「～することができる」の形で表して、設定することになっています。平成25年に「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO』の形での学習到達目標設定のための手引き」（文部科学省）に基づいて、既に作成及び活用していた中学校においても、今回の学習指導要領の改訂に伴い、大幅な修正が必要となり、小学校高学年では新たに作成、高等学校では年次進行での実施に併せて作成となります。

そこで、札幌市では、各学校が児童生徒の実態に応じた「CAN-DO リスト」の作成・活用が新年度の早い段階で進められるよう、札幌市モデルの「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標（以下、「札幌 CAN-DO スタンド」という。）を作成し、本ハンドブックに掲載するとともに、データの配付も行いました。また、より効果的な活用が図られるよう、本ハンドブックにおいて、「CAN-DO リスト」の作成手順や「CAN-DO リスト」に基づくパフォーマンステスト例、ICT活用等について示しています。



■平成 23 年 国際共通語としての英語力向上のための五つの提言と具体的施策

- ・各中学校・高等学校が学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DO リスト」の形で具体的に設定することとした。

■平成 25 年 3 月 「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO』の形での学習到達目標設定のための手引き」

- ・設定の趣旨・目的・設定手順、活用方法等を詳細に解説した。
- ・当時の学習指導要領に併せて4技能で作成したもの。

■平成 26 年 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告

～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～

- ・次期学習指導要領における改善の方向性を示した。
- (1) 小・中・高等学校を通して、各学校段階の学びを円滑に接続させる。
- (2) 「英語を用いて何ができるようにするか」という観点から一貫した教育目標を示す。

■学習指導要領から分かる「学習到達目標設定」のねらい■

○各学校段階の学びの接続

小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするために、指導計画の作成にあたっては、語彙、表現など異なる場面の中で繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する力を高める。

○小・中・高等学校で一貫した目標を実現

外国語の特性を踏まえて、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」に示す資質・能力を育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、国際的な基準である C E F R (外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠) を参考に五つの領域で目標を設定している。

○五つの領域別の目標が明確化

互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層充実する観点から、「話すこと [やり取り]」の領域を設定。「話すこと」が、[やり取り] と [発表] の2領域に。これまで活用していた中学校・高等学校の「CAN-DO リスト」は改訂が必要となる。

五つの領域				
聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り] 複数の話者が 相互に話す場合	話すこと [発表] 1人の話者が 連続して話す場合	書くこと
受 容		発 信		

○領域別目標と関連付けられた学習到達目標を作成

五つの領域別の目標を踏まえながら、より具体的な言語材料と言語活動を統合して設定されたものにすることが望ましい。同一の学習到達目標について、複数の単元で異なる言語材料を活用した異なる言語活動を行うことにより、五つの領域別の目標をよりよく達成できるカリキュラム・マネジメントや課題設定が望まれる。

○各学校において設定

学年ごと（※高等学校は、年次ごと及び科目ごと）の目標を、学習指導要領を踏まえて各学校が設定する「学習到達目標」として児童生徒に求められる英語力を達成するための具体的な形で設定する取組は、既に各学校で行われているが（※小学校外国語科は今回の改訂から）、今回の改訂で領域別の目標が明確に示されたことにより、その目標と関連付けられた学習到達目標とする必要がある。

三つの共有を！

- ①学校内共有（英語専科・専門教員、学級担任間、教科会等）
- ②校種間共有（小・中・高）
- ③児童生徒・保護者との共有

■三つの共有を通して期待される効果

①学校内

校内の英語指導を担当する教員同士が協力して「CAN-DOリスト」を作成、更に共有します。授業では、学習の目標、授業のねらいを明確にし、学年間、校種間の円滑な学びを意識した適切な指導になるよう心がけます。

教師間で教材の共有、指導の在り方等の共通理解を図ることによって、均質的な指導ができます。

②校種間

パートナー校間で「CAN-DOリスト」を共有する際、授業における言語活動の取組の様子や英語力の状況、使用している教材・教具、ICTの活用状況など、学習の状況について交流することによって、小学校は卒業時の到達目標を、中学校は入学期の円滑な接続を意識しながら、指導の工夫・改善を図ることができます。

③児童生徒

児童生徒にどのような資質・能力が身に付くか、あらかじめ明らかにして共有することで、授業のねらいが明確になるとともに、児童生徒への適切な指導を行うことができます。面接、スピーチ等のパフォーマンステスト等（PI2参照）の実施により、言語を用いて何ができるかという観点から評価されることが期待され、指導と評価の一体化と改善につなげることができます。

■校種間連携・接続を考える観点

校種間連携・接続の観点として、①学習到達目標②指導内容③指導法④評価方法の四つの一貫性や系統性・継続性へ配慮し、円滑な接続を心掛ける必要があります。

■具体的な共有・連携のイメージ（例）

【A 小学校】



小→中へ情報提供・連携

年間指導計画・使用した教材の情報提供
小学校「CAN-DOリスト」の共有
児童の全体的傾向や個別の実態など
ICT活用実践例の交流

【B 小学校】



中→小へ情報提供・連携

中学校「CAN-DOリスト」の共有
当該小学校卒業児童の中学校における学習状況及び指導上の課題等
卒業児童の課題等を踏まえて、小学校における学習に期待したいこと
ICT活用実践例の交流
児童生徒の交流学習の機会の設定

【高等学校】

各学校の特色を踏まえた進路選択へ



児童生徒にとって、学年や校種が変わると日常生活のみならず、学習環境も大きく変わります。「小学校で学習したことが中学校でも生かすことができる。」と児童生徒が感じられるよう、校種間のつながりを意識しながら言語活動を適切に行うことが重要です。

■「札幌市教育課程編成の手引」の活用

標記の手引では、学習指導要領に基づき、下記の項目について示しています。小・中学校の接続を重視し、学びの連続性を意識した指導をするため、外国語活動・外国語科の目標、育成すべき三つの資質・能力や、五つの領域の校種を通じた共通点や発達の段階等を確認することができます。

「札幌市教育課程編成の手引」の主な項目

【小学校編・中学校編共通項目】

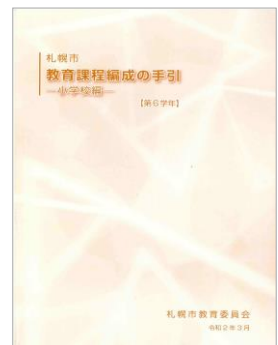
- ・ 目標及び内容
- ・ 育てたい資質・能力の系統表（学校段階別一覧表）
- ・ 評価規準の作成及び評価方法の工夫
- ・ 年間指導計画
- ・ 外国語科における課題探究的な学習

【小学校編のみ】

- ・ クラスルームイングリッシュについて
- ・ 外国語活動で扱うゲーム
- ・ 学習内容一覧表
- ・ 単元一覧表

【中学校編のみ】

- ・ 評価事例
- ・ 中学校外国語補助教材 Bridge について
- ・ 小学校の先生によるコラム



小学校編（令和2年3月）



中学校編（令和3年2月）

特に、中学校編では、小学校の先生によるコラム及び年間指導計画において、下記のように、小中間のつながりを示しています。

■中学校編「年間指導計画」において示している小中間のつながり

- ① 単元と目標 小学校とつながりのある内容（※小で示しています。）
- ② 留意事項・配慮事項（※★で示しています。）
 - ・ 小学校で学んだ表現・活動例
 - ・ 中学校外国語補助教材 Bridge※の活用箇所

※Bridge：中学校学習指導要領（平成29年3月告示）において新たに追加された内容を、令和2年度の中
学1年生と2年生が確実に学び、履修漏れを防ぐために文部科学省が作成・配付した資料。

学習指導要領の外国語活動、外国語科の目標では、全校種に共通し、「『言語活動』を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す」と示しています。ここで、「言語活動」とは、どのような活動を指すのかについて、確認します。

外国語活動や外国語科における言語活動は、通常、私たちがイメージする言語を通じたやり取りよりも、基本的なものである。学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「**実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う**」活動を意味する。

外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというとはそうではなく、言語活動は、**言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている**。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、**情報を整理しながら考えなどを形成する**といった「**思考力、判断力、表現力等**」が活用されると同時に、**英語に関する「知識及び技能」が活用される**。

「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」（2017年文部科学省）一部抜粋

(1) 「言語活動」と「言語活動を支える活動」の違い

授業で行うコミュニケーション活動には、大きく分けて2種類あります。

① 言語活動を支える活動

決められた表現を使った反復、模倣や置き換えなど、学習した語句や表現の理解を深め、正しい表現の形を身に付け、定着を図る練習を指します。言語活動を支える目的で行う練習活動ですから、児童生徒に対してより丁寧な指導が必要です。

② 言語活動

コミュニケーションの目的、場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を活用し、実際に英語を使用して自分の考えや気持ちを相互に伝え合う活動を指します。具体的な場面設定の中で「誰に」「何のために」という「相手意識」や「目的意識」をもって質問したり答えたりする必然性のある活動です。多少の誤りがあっても円滑に運用することをねらいとすることから、児童生徒が積極的・主体的に英語を使おうとする態度や伝達内容、目的の達成度を評価し、伝達に支障を及ぼす重大な誤り以外は活動を止めて訂正せず、活動段階の区切りの場面や活動後にフィードバックします。

(2) 小中の接続を踏まえた言語活動

- ・ 中学校初年度の導入段階は、小学校で学習した内容の定着度の状況など、生徒の実態を踏まえ、必要な言語活動を通じた学習を繰り返し行い、小学校の学びを中学校段階へ接続させる指導を行います。
- ・ 小学校の高学年で指導された簡単な語句及び基本的な表現や、高学年における文字の認識、語順の違いなどへの気付き等に関して指導された内容を中学校の言語活動において繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを活用し、話したり書いたりして表現できるような段階まで確実に定着させます。
- ・ 言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、コミュニケーションの目的や相手意識をもって行うことができるよう、具体的な課題等を設定します。また、その目的を達成するために、小学校段階では必要な語句や文などを気付いたり考えたりできるようにし、中学校段階では必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにします。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定手順は、既に、「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO』の形での学習到達目標設定のための手引き（平成 25 年 3 月文部科学省）」で示されています。各学校で「CAN-DO リスト」を作成する際は、「児童生徒の学習の状況等を踏まえた上で、「卒業時の学習到達目標」を設定し、それを達成するための「学年ごとの学習到達目標」を設定します。授業を考える際は、各校種の卒業時の学習到達目標をゴールとして、逆算しながら本時の授業までをイメージしていきます。

① 卒業時の学習到達目標を設定

卒業時の学習到達目標	よく見て、よく聞き、よく考えて、伝える北光の子 ～身近でかんたんな英語を聞いて理解し、小学校で学習した英語を使って、考えや気持ちなど伝え合うことができる。
------------	--

② 「CAN-DO リスト」で目標設定 (P7~11 参照)

学年	学期	聞くこと	話すこと (やり取り)
5	2	身近な人の紹介、場所や位置についての説明、料理の注文などについて、ゆっくりはっきりと話されれば、おおよその内容を理解できる。U4, U5, U6, CYS2	身近な人ができることやできないことを、簡単な単語や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。U4, U5, U6

③ 年間指導と単元計画への反映

「札幌市教育課程編成の手引—小学校編」手引の年間指導計画

④ 単元の学習課題の設定

友達と一緒に作ったオリジナルタウンマップを使って、道案内しよう。場所をたずねたり答えたりするとき、相手にしっかりと伝えるためには、どのような言い方で案内するとよいか。

⑤ 発表例や会話例の設定

A: Excuse me. Where is your house?
B: Go straight for two blocks.
A: O.K. Two blocks...
B: Turn right.
Go straight for three blocks.
You can see it on your left.
A: Here?
B: That's right.

⑥ 目標の達成状況を把握するための具体的な評価を計画

5 本単元における「話すこと〔やり取り〕」「聞くこと」における評価規準例

領域	聞くこと	話すこと〔やり取り〕
観点	知識・技能	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
場面	第5時・第6時	第5時・第6時 第5時・第6時
方法	行動観察	行動観察・発表 行動観察・発表
	<知識>場所を尋ねたり、答えたりする語句や表現を理解している。 <技能>道案内の説明を聞いて、おおよその内容を聞き取る技能を身に付けている。	場所を尋ねたり、答えたりする目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、尋ねたり答えたりしている。 他者に配慮しながら、場所を尋ねたり、答えたりする目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、尋ねたり答えたりしようとしている。

⑦ 単元の指導計画

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前 (既習)	NHEI Unit4	身近な人や地域のことを紹介する活動を通し「建物」の英語表現を学習している。
1-2	Starting Out 英語を聞いて、行き先までの道順をなぞる。	映像や音声の視聴を通し、道案内の仕方について、内容を推測しながら聞き、おおよその内容を理解する。
3-4	Your Turn 探し物がある場所や地図の中にある建物の場所について、案内し合う。	①Small Talk~何の地図記号かをたずね合おう~ ②音声から探し物がある場所を聞き取る。 ③児童同士で身近なものがある場所をたずね合おう~ ④Small Talk~教室内のもの場所をたずね合おう~ ⑤道案内の音声で地図上の建物の場所を聞き取る。 ⑥友達と地図を使って道案内をし合う。
5-6 (評価)	Enjoy Communication 友達と一緒に作ったオリジナルタウンで道案内をし合う。	①Small Talk~自分の町に欲しいものをたずね合おう~ ②オリジナルタウンを作り、道案内をし合う。 ③挨拶やお礼の言葉も入れて、道案内をし合う。
7-8	Over the Horizon 世界の地図や標識について考えよう。	①Small Talk~「〇〇はどこですか?」とたずね合おう~ ②世界の地図や標識について知り、考える。

⑧ 授業

※緑枠は児童の学習活動

- 1 コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- 2 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、見通しを立てる。
- 3 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。

⑨ 達成状況の把握

パフォーマンステスト等

⑩ 学習到達目標の見直し

4 言語面・内容面で自らの学習のまとめと振り返りを行う。

■用意するもの

【小学校】

- ・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）→
- ・札幌市教育課程編成の手引－小学校編（令和2年3月 札幌市教育委員会）
- ・NEW HORIZON Elementary English Course(東京書籍)
- ・札幌 CAN-DO スタンダード (Excel シート)



【中学校】

- ・中学校学習指導要領解説外国語活動編（平成29年7月 文部科学省）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）→
- ・札幌市教育課程編成の手引－中学校編（令和2年2月 札幌市教育委員会）
- ・NEW HORIZON English Course(東京書籍)
- ・札幌 CAN-DO スタンダード (Excel シート)



■「札幌 CAN-DO スタンダード」Excel シート活用の手順

Excel シートで作成された「札幌 CAN-DO スタンダード」を自校用に加工することができます。下図のように①～⑤までのタブがあり、枠を活用して作成すると効率的です。

月	L3	P3	I3	S3	W3
	きる。【LL3】 ★UA冬休みの思い出をたずねあおう ★SA3My Favorite Event This Year	★UA日記で思い出を眺めよう ★SA3My Favorite Event This Year	★UA冬休みの思い出をたずねあおう ★UA日記で思い出を眺めよう ★SA3My Favorite Event This Year	★SA3My Favorite Event This Year	【U11、LW】 ★UA冬休み ★LW2 新年
	①小中高つながり編	②小中つながり編	③小学校	④中学校	⑤高等学校

【札幌 CAN-DO スタンダード】

スタンダードは①②の2種類あります。

①小中高つながり編

- ・学習指導要領を基にして作成しています。
- ・各校種間のつながりを捉えることができます。

②小中つながり編

- ・教科用図書（東京書籍 New Horizon）の単元の流れに沿って整理。
- ・各学期末の学習到達目標、小中共通の題材の実施時期が分かる。

・「②小中つながり編」を基に、下記の流れで作成していきます。

・これまで使用していた「CAN-DO リスト」を5領域版に改訂する際の参考にもなります。

各学校で能力記述文を作成する際、参考にしてください。

【Step1】確認する

- ③小学校編
- ④中学校編

【Step2】モデル校の活用事例を参考にする

- 小参考例
- 中参考例
- 児童配付用
- 生徒配付用

【Step3】作成する

- 小学校
- 中学校

【Step4】

児童生徒と共有する

②を校種別にしたものです。記載内容は②と同じです。

モデル校「北光小学校」「伏見中学校」の作成手順、配付用を参考にします。(P8 参照)

- ・児童生徒の状況を踏まえ、③④を加工した箇所、その理由等を示しています。
- ・「児童配付用」「生徒配付用」が完成版です。

【③④に加筆した項目や内容】

- 卒業時の学習到達目標
- 振り返り時期の日付記入欄
- 評価方法とその実施単元

自校用を作成する際に、枠を活用できます。(P8 参照)

年度の早い段階で児童生徒に配付し、共有します。



■能力記述文の作成要領

(1) 学習到達目標に含まれる三要素

「英語を使って何ができるか」について、学習到達目標を「～することができる」の形で示す文を「能力記述文」と言います。(P1 参照)

能力記述文は、次の①～③の三つの要素から構成されています。

学習到達目標に含まれる三要素		
① どのような条件や状況で	② どのようなことについて A: 事柄・話題 B: 内容	③ どのようなことができるのか

どの時期に、どの単元で、どのような題材を扱うかを、教科用図書、教育課程編成の手引の年間指導計画等で確認しながら、各学校の児童生徒の学習の状況等を踏まえ、下記のように、①②③の三つの要素を組み合わせることで目標設定します。

能力記述文 基本的な形

「【 ① 】であれば、【 ②A 】について、【 ②B 】を【 ③ 】ことができる」
 →①ははっきりと話されれば、②A日常的な話題について、②B短い説明の要点を③聞いて理解することができる。

(2) 「札幌 CAN-DO スタンダード」を活用した能力記述文の作成

P9～P11 掲載の「領域別3要素(例)」を参考にしながら、赤字部分のように加工します。

【札幌 CAN-DO スタンダード】

14	予定や将来の夢、職場体験などについて、即興でたずねたり答えたりすることができる。U1、LT2、U3
	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

【自校の「CAN-DO リスト」(活用例②)】

w3	5年生は、書く活動の場面に限られており、力をつけるのに時間がかかる場合もあります。1年間で少しずつ積み重ねられるよう指導し、評価の場面を絞ります。
	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

【自校の「CAN-DO リスト」(活用例①)】

14	<p>予定や将来の夢、職場体験などについて、×モに基づき即興でたずねたり答えたりすることができる。【U1、LT2、U3】</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>★UA:夏休みの旅行計画 ★UA:職業体験の発表 ★U2:Mini Activity Speaking & Write</p> </div>
	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

特にどの活動でどの領域を重要視するのか、更に評価の方法も含めるとよいでしょう。

①「どのような条件・状況であればできるのか」

②「どのような内容についてか」

③「どのようなことができるようになるのか」

(3) 能力記述文を作成する際の留意点

- ① 児童生徒の学習の状況等を踏まえて、目標に向けて指導を行い、達成状況を評価することから、評価可能な学習到達目標になるよう、留意します。
- ② 言語活動を行う際、具体的な課題に対して目的を達するために必要な語句や表現などを小学校では気付かせたり考えさせたりし、中学校段階では取捨選択して活用させることから、「現在進行形を使うことができる」のように言語材料を含めない記述にします。
- ③ 話したり書いたりする文の数や時間などの数値は含めません。

(4) 領域別三要素（例）

教師用と児童生徒用を共用する場合、児童生徒にとって理解しやすい表現になるよう、下記例のように、工夫するとよいでしょう。

【例】（教師用）詳細が分かる ➡（児童用）くわしい内容が分かる
 （教師用）概要を理解する ➡（生徒用）大まかな内容を理解する

【聞くこと】

	①どのような条件や状況で	②どのようなことについて	③どのようなことができるのか
小学校	ゆっくりはっきりと話されれば 繰り返し話されれば イラストや写真があれば	(A 事柄・話題) アルファベットの発音を 自分のことについて 身近なことについて 日常生活に関することについて (B 内容の程度) 簡単な語句を 基本的な表現を 具体的な情報を 短い話の概要を／大事なことを	どの文字であるか分かる 意味が分かる 何か分かる 何を言ったか分かる 捉える 聞き取る 聞いて理解する
中学校	はっきりと話されれば 概要や要点を整理しながら 繰り返しや言いかえを交えて 新出語句の意味を推測しながら	(A 事柄・話題) 日常的な話題について 身近な話題について 社会的な話題について (B 内容) 必要な情報を 話の概要を 短い説明の要点を 話し手の意図を 講義や討論を	捉える 聞き取る 聞いて理解する 聞いて把握する 理解して行動する 理解して聞き取る

【読むこと】

	①どのような条件や状況で	②どのようなことについて	③どのようなことができるのか
小学校	音声で十分に慣れ親しんだ 繰り返し声に出して学習した	活字体で書かれた文字を 身近にある文字を 身近にあるものを表す単語を 身近なことを表す単語を	見て、意味が分かる 見て、その意味を理解する 識別し、発音する
中学校	絵や写真を参考にして 実物を参考にしながら 概要や要点を把握した上で	(A 事柄・話題) 日常的な話題について 社会的な話題について (B 内容) 簡単な語句や文で書かれたものを 短い文章や対話文を 短い文章の概要を／要点を 必要な情報を 物語や説明文を 文章の詳細を 自分にとって必要な情報を 筆者の意図を まとまりのある説明や物語を 社会性の高いテーマを扱った物を	読み進める 読み取る 理解する くみ取る 捉える 把握する

【話すこと(やり取り)】

	①どのような条件や状況で	②どのようなことについて	③どのようなことができるのか
小学校	相手にゆっくり話されれば 相手にくり返し話してもらえば 伝えたいことを表現する例を参考にすれば その場で※ ※その場で 「それまでの学習や経験で蓄積した話す力・聞く力を駆使して自分の力で質問したり答えたりするやり取り」を意味します。	(A 事柄・話題) 挨拶やごく短い簡単な指示に 自分に関することについて (B 内容) 自分の考えや気持ちなどを	指示する 依頼する 応答する ごく簡単な質問に答える 伝え合う
中学校	基本的な語や言い回しを用いて 簡単な語句や表現を用いて メモに基づき 即興で※ 理由を1文以上付け加えて ※即興 「原稿をあらかじめ作成し、暗記や暗唱させて行わないやり取り」を意味します。	(A 事柄・話題) 興味・関心のある事柄について 家族や友人、自分の紹介や趣味について 日常的な話題について 身近な社会的な事柄について 社会性の高い事柄について (B 内容) 事実について 自分の考え、気持ちを 考えたことや感じたこと、理由を	たずねる 簡単なやりとりをする 短い会話をする 述べ合う 相手からの質問に答える 会話をする 質疑応答する 意見交換をする 議論する

【話すこと(発表)】

	①どのような条件や状況で	②どのようなことについて	③どのようなことができるのか
小学校	簡単な語句や基本的な表現を用いて 伝えようとする内容を整理※した上で ※整理 「聞き手に分かりやすく伝わるように複数あるものの順番を決めたり、選んだりすること」を表しています。	(A 事柄・話題) 自分や身の回りの物事に関する ごく限られたことについて 自分の考えや気持ちなどを	簡単な挨拶をする 話す
中学校	小学校で学習した語句や表現などを用いて 基本的な語や言い回しを用いて 簡単な語句や表現も用いて メモを頼りにしながら即興で 理由を1文以上付け加えて ※整理 「話してとして伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成などを考えたり、事実と考えを分けて整理したりするなど、話す内容を大まかな流れにしてコミュニケーションの見通しを立てること」を意味しています。	(A 事柄・話題) 自分、身近な人の趣味について 日常生活について 興味・関心のあることについて 身近な社会的な事柄について 社会の出来事や問題について (B 内容) 事実や自分の考え、気持ちを 考えたことや感じたこと、その理由などを 事前にインタビューした内容を インターネットで調べた情報を 整理したことや自分の意見を	述べ合う スピーチをする 相手に伝える

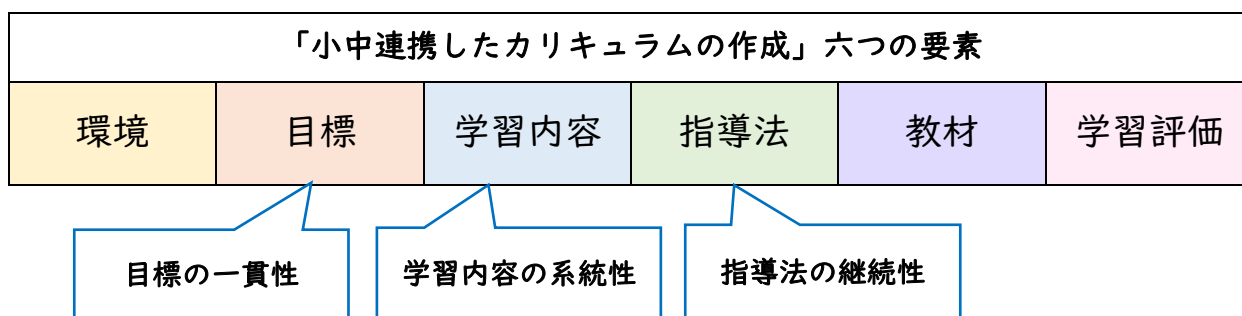
【書くこと】

	①どのような条件や状況で	②どのようなことについて	③どのようなことができるのか
小学校	目的をもって 例文を参考にしながら 英語で書かれた文の一部を 例示された語句に置き換えれば	(A 事柄・話題) 自分のことについて 身近で簡単なことについて (B 内容の程度) アルファベットの大文字と小文字を 音声で十分学習した語句や文を	書き写す 活字体で書く
中学校	簡単な語句や基礎的な表現 を用いて 2～4文程度の短い文で 短い文章で 読み手に正しく伝わるように よりよく読み手に伝わるように つながりのある文章で まとまりのある文章で 論点や根拠を明確にしなが ら自分の立場をはっきりさせて	(A 事柄・話題) 関心のある事柄について 日常生活について 興味・関心のあることについて 身近な社会的な事柄について 社会の出来事や問題について (B 内容) 自分が伝えたい内容を／情報を 考えや気持ちを 簡単な短い文章や対話文を 日記や短い説明文を 必要な情報を 筆者の意図を 文章の詳細を まとまりのある文章を まとまりのある説明や物語を 社会性の高いテーマを扱った物を	書く 報告する 聞き取って書く 説明する 読み手を説得する <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">日常的な話題を 「書くこと」で伝える形式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール・手紙・日記 ・レポート・スピーチ原稿 </div>

■パートナー校との「CAN-DO リスト」の共有

3 ページで述べたように、パートナー校間の共有は、指導の工夫・改善につながられるという効果があります。小中連携したカリキュラムの作成のためには、下記の六つの要素があります。

これまで、中学校教員が小学校で授業を行ったり、小学生が中学校を訪れて授業に参加したりするなど、各学校で工夫しながら小中連携に取り組んでいます。今後は地域の小学校間、小・中学校間のパートナー校において、英語を指導している教員同士が日常的に情報交換や授業交流できる関係を築き、校種間で接続したカリキュラムや「CAN-DO リスト」を作成するなど、外国語教育においても「小中一貫した教育」の充実を図っていくことが大切です。



学習指導要領を踏まえて各学校が設定した「CAN-DO リスト」の形での「学習到達目標」として児童生徒に求められる英語力が達成されているかどうかを測るためには、学習到達目標に対応した学習活動の特質等に応じて、ペーパーテストのみならず、面接、エッセイ、スピーチなど、児童生徒が実際に英語を使用して行うパフォーマンスや言語活動の様子を評価することが期待されます。

Q.1 パフォーマンステストとは何ですか。

児童生徒が様々な言語活動（習得・活用・探究）を通して語彙や表現に慣れ、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、コミュニケーションが図られるようになってきているかを、実際に英語を用いて何ができるかという観点から測るテストです。望ましい姿をモデルで示し、反復や模倣などの練習や言語活動を行ってからテストを実施することで、児童生徒にとってもゴールの姿が具体的に、指導と評価の一体化における効果も期待されます。

Q.2 パフォーマンステストにはどのような方法がありますか。

面接、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの「話すこと」だけではなく、メール、手紙、エッセイなどの「書くこと」も含まれます。各学校段階において、適切な実施方法を設定する必要があります。

観点別学習状況の評価を適切に行うためには、ペーパーテスト、パフォーマンステスト、レポートの作成、グループでの話し合い、作品の制作等、児童生徒が多様な学習活動に取り組む状況が的確に評価される方法を選択することが重要です。

Q.3 パフォーマンステストの計画・実施の留意点は何ですか。

時間や場所、回数を考慮し、実施可能な計画を立てましょう。児童生徒の入れ替え時間の見積もりや実施する教師の人数によって、一人当たりの実施時間や要領の選択肢の幅が変わってきます。

パフォーマンステストを行うことによって児童生徒が緊張感から人前での発表が嫌になったり、自信をなくしたりすることを避けるために、発表前に十分な練習時間をとることも大切です。また、事前に準備した上で行うような発表は教室で児童生徒が見ている前で、即興でやり取りするタイプは別室で個別に実施することなども視野に入れ、どの児童生徒も安心して力を発揮できる環境づくりに留意しましょう。

Q.4 パフォーマンステストでどのように評価しますか。

パフォーマンステストの実施にあたり、学習結果のパフォーマンスレベルの目安を数段階に分けて、それぞれのレベルで到達が期待されるパフォーマンスの特徴を示した評価規準が必要です。学年等で複数の指導者がいる場合、この「ものさし」が公平な評価につながります。評価規準について、あらかじめ児童生徒と共有しておくことが重要です。

Q.5 評価後にどのような振り返り（リフレクション:Reflection）をすればよいですか。

振り返りには、「自己評価」「相互評価」「学んだ内容の振り返り」「学びに生かすための振り返り」等があります。

児童生徒が、内容面や言語面について振り返りができるよう、振り返りシートを活用するとよいです。シートでは、授業内で取り組んだ活動を具体的に思い起こしつつ自らを評価できることが重要です。授業の感想を書くだけにならないよう、振り返りの視点を示すことも大切です。また、練習や評価の段階で一人一台端末を活用して録音や録画したものを振り返りに活用することも有効です。

数値による評価だけでなく、コメントを添えて評価シートを返却したり、学級全体でよいパフォーマンスを共有したり、共通の課題等について伝えるなど、フィードバックの工夫も大切です。

これらの振り返りを通して、児童生徒は学習の次の目標をもてるようになり、指導者にとって児童生徒の様子への把握から具体的な支援のヒントが得られ、授業改善の大きな助けになります。

本ハンドブックに参考資料として、巻末にパフォーマンス例を示しています。ここでは、小学校、中学校で使用する教科書の単元の終末や内容のまとめりごとにも実施するパフォーマンステストを掲載しました。高等学校は、学習指導要領が年次実施であることから、現在、市立高等学校において実施しているパフォーマンスを基に、次期学習指導要領実施に向けた視点を加味して改訂した例を掲載しました。

評価例は、6ページで示す手順に沿って、下記のように紙面を構成しています。各学校において、全単元における指導計画の作成、「CAN-DO リスト」での学習到達目標の設定、パフォーマンステストの実施に向けた計画の作成、さらには授業における、目標設定、学習内容、評価等を工夫する際の参考としてください。

自校の「CAN-DO リスト」の目標、単元目標の設定の際、参考にしてください。

実施方法、指導のポイント等を示しています。発表例や対話例を作成することによって、テストで児童生徒のどのようなパフォーマンスが見られるかを想定することができ、言語活動での丁寧な指導につなげることが出来ます。

パフォーマンステスト例 (小学校)

小5 【話すこと(発表)】 Unit3 What do you want to study? 夢に近づく時間割を紹介しよう

1 「札幌 CAN-DO スタンド」の形で学習到達目標(小中つながり編)との関連
○名前や好きなもの、誕生日やほしいもの、学びたい教科ややりたい職業について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、話すことができる。[s1]

2 単元名・単元目標
単元名: NEW HORIZON Elementary 5 第5学年
『Unit3 What do you want to study? 夢に近づく時間割を紹介しよう。』
自分のなりたい夢に近づくための時間割を作り、職業や学びたい教科など学習した語句や表現を使って、自分の考えなどを発表することができる。【話すこと(発表)】

3 単元の学習内容

校時	学習内容	学習活動・言語活動
指導前(既習)	Let's Try2 Unit8「お気に入りの場所を紹介しよう」を	児童同士でのインタビュー活動を通し、校内のお気に入りの場所や好きな教科の英語表現について慣れ親しんでいる。
1-2	Starting Out 場面の順を考えながら、英語を聞く。	映像の視聴を通し、学びたい教科ややりたい職業の伝え方について、内容を推測しながら聞き、おおよその内容を理解する。
3-4	Your Turn 学びたい教科ややりたい職業についてたずね合う。	①Small Talk〜どの教科が好きかたずね合う〜 ②音声からの曜日の日課なのか聞き取る。 ③児童同士で学びたい教科について、友達とペアでたずね合う。 ④Small Talk〜何になりたいかをたずね合う〜 ⑤音声から登場人物の学びたい教科となりた職業を聞き取る。 ⑥自分のなりたい夢について友達と伝え合う。
5-6(評価)	Enjoy Communication 夢に近づく時間割を紹介する。	①Small Talk〜〇曜日には何がですか〜 ②自分の学びたい教科を決めて、ペアでたずね合う。 ③自分のなりたい職業を決めて、ペアでたずね合う。 ④夢に近づく時間割を考え、友達に発表する。
7-8	Over the Horizon 世界の授業について考える。	①Small Talk〜何を勉強したいですか〜 ②世界の授業について知る。

パフォーマンステスト例 (小学校)

A: This is my card.
I have Japanese, P.E., science, English, math and science.
I want to study science.※1
I want to be a vet.

B: Good luck!

A: This is my card.
I want to be a vet.※2
I want to study science.
I have science, P.E., Japanese, English, math and science.
B: Good luck!

2) パフォーマンステストの実施方法・留意点

- 児童が紹介し合っている様子から評価の記録に残す。
- 評価のタイミングによって、個別の状況に差が出るが考えられ、児童全員を見取ることが難しい場合もある。右の例のような発表形式をとり、総合的な評価を行うことも考えられる。あるいは、第5時で(b)に至っていないと判断した児童を優先して観察し、改善が見られた場合は記録に修正を加える方法もある。
- 2グループが一組となり、一人ずつ発表する。一人の発表が終わるごとに、次に発表する人が英語でひとこと感想を言う。(Picture Dictionary 裏表紙内参照)上の例のように、グループを変えて発表する。

3) 指導のポイント

①事前指導

- 相手によりよく自分のことを伝えるために、伝える内容を整理した上で話したり、身振りや表情、ジェスチャーを用いて分かりやすくする工夫について、気付かせる指導も考えられる。
- Small Talk で、既習である I like ---, や Do you like ---? を用いて、詳しく伝えることや聞き手とコミュニケーションを取りながら話すことの良さに触れる。

②事後指導

- 自己評価により、自分のパフォーマンスの振り返りをさせる。
- 「努力を要する状況」(c)と評価した児童がいた場合には、その後の指導改善や、学習改善につながる手立てを継続して行うようにする。例えば、第5時の行動観察を踏まえ、児童のつまずきに応じて助言や支援を行い、次時の発表までの練習機会を設けるなど、改善状況を見取るようにする。

5 本単元における「話すこと(発表)」における評価規準例

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場面	第3時・第4時	(第5時)・第6時	(第5時)・第6時
方法	行動観察	行動観察・発表	行動観察・発表
話すこと(発表)	知識・技能 ＜知識＞学びたい教科ややりたい職業を伝える語句や表現を理解している。 ＜表現＞時間割などの質問を尋ねる技能を身に付けている。 ＜態度＞「満足できる」状況(a)と判断される例	思考・判断・表現 自分のなりたい夢に近づくための時間割を作り、職業や学びたい教科など学習した語句や表現を使って、自分の考えなどを発表している。	主体的に学習に取り組む態度 自分のなりたい夢に近づくための時間割を作り、職業や学びたい教科など学習した語句や表現を使って、自分の考えなどを発表しようとしている。

4 パフォーマンステスト例

(1) 発表例
A: Hi, everyone.
All: Hi.

A: Hi,
All: Hi

参考資料 パフォーマンステスト 3

参考資料 パフォーマンステスト 4

ICT 活用の場面を図で示しています。(→詳細は次ページ)

この時間にパフォーマンステストを実施します。

評価規準の能力記述文は、パフォーマンステストの実施内容やそれまでの学習の過程(習得・活用・探究)によって到達度を測る領域・観点が異なることから、各学校で十分考えて設定する必要があります。

令和3年度から小・中学校において1人1台端末が導入されます。また、小学校に加えて中学校においても教科書に準拠した指導者用デジタルブックの活用が可能になり、これまでよりも、映像や音声の提示が容易になり、そのコンテンツも豊かになります。

文部科学省の「教育の情報に関する手引」では、下記のような学習場面を示しています。

■各校種におけるICTを活用した学習場面～外国語科

【小学校】

- (1) 児童がコミュニケーションの目的や場面、状況（学習のめあて）を理解する場面
- (2) 学習のモデルを確認し、自分の発表に活かす場面

【中学校】

- (1) 新たに学習する言語材料を導入する場面
- (2) 情報を収集し、自分の考えや気持ちなどを整理する場面
- (3) 情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする場面



【高等学校】

- (1) 導入の場面
- (2) 外国語による言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解する場面
- (3) 外国語による言語活動を通して、情報や考えなどを適切に表現したり伝え合ったりする場面

文部科学省『教育の情報に関する手引（追補版）』第4章教科等の指導におけるICTの活用より






外国語学習とICTの活用は親和性が高く、ICTを効率的かつ効果的に活用することによって、充実した学習が可能になります。写真や映像の視聴によって、現実感や臨場感を与え、学びの動機付けときっかけを与えることができるほか、課題探究的な学習での効果的な活用も想定されます。

ただし、ICTを活用することが目的そのものになったり、準備に必要以上の時間や労力を費やすことになったりすることがないように、留意する必要があります。授業では、教師も児童生徒もコミュニケーションの手段として英語を積極的に使ってコミュニケーションを行うことが重要であるためです。

ICTは、児童生徒が身に付けるべき資質・能力や児童生徒の実態、教材の内容などに応じて、生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や主体的な言語活動の充実を図るために活用します。

■ ICTを活用した学習活動例

外国語の授業における具体的な学習活動には以下のような例が挙げられます。後述のパフォーマンス例において、下記の図を用いて、学習場面と学習活動例を紹介しています。

	図	学習活動例 ※ICTを効果的に活用する際の活用主体・・・○教師が活用 ●児童生徒が活用
1		<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションの場면을映像で提示する。 ○モデルになる対話や発表の映像を提示する。 ○音声による文や会話を提示する。 ○内容と関連のある写真や短い映像などを提示する。 ○英語で書かれた例文を共有し、語順等を視覚的に意識する。 ●作成の途中で共有し、互いに評価する。 ●作成した資料を共有しながら発表する。
2		<ul style="list-style-type: none"> ●理解に応じて、音声を繰り返し聞く。 ●再生される音声を参考にし、語や語句、英文を声に出して発音する。 ●発音や発表を記録・再生して確認する。 ●音声入力機能を活用して発音チェックをする。
3		<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットを用いた情報収集、調査をする。 ●インターネットで語や語句の意味を調べる。
4		<ul style="list-style-type: none"> ●個別やグループで写真等を用いて資料・作品を制作する。 ●制作した作品を保存・共有する。 ●制作過程を振り返ったり、意見交流を行ったりする。
5		<ul style="list-style-type: none"> ●アルファベット、語句や英文をキーボードに入力する。 ●キーボードにアルファベットを入力する。 ●表やグラフを作成して整理・分析する。(高等学校)

<主な参考・引用文献>

文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』

国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

文部科学省（2013）『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』

東京書籍（2020）小学校外国語科用 文部科学省検定教科書『NEW HORIZON Elementary English Course』

東京書籍（2021）中学校外国語科用 文部科学省検定教科書『NEW HORIZON English Course』

札幌市教育委員会（2020）『札幌市教育課程編成の手引ー小学校編』

札幌市教育委員会（2021）『札幌市教育課程編成の手引ー中学校編』

菅 正隆（2020）『小学校外国語新3観点の評価づくり完全ガイドブック』明治図書

本多敏幸（2020）『中学校外国語新3観点の学習評価完全ガイドブック』明治図書

樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子（編著）（2017）『小学英語指導法事典』教育出版

金森強・本多敏幸・泉恵美子（2017）『主体的な学びをめざす小学校英語教育』教育出版

泉恵美子・萬谷隆一・アレン玉井光江・田縁真弓・長沼君主（編著）（2018）『小学校英語Can-Do及びパフォーマンス 評価尺度活用マニュアル ～思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力評価試案～』小学校英語評価研究会

令和2年度札幌市英語教育改善プラン
小・中・高等学校間の連携・接続を図る
「札幌 CAN-DO スタandard」活用ハンドブック

作成委員

【小学校】

大原 拓幸	教諭	札幌市立幌西小学校
高橋 文	教諭	札幌市立あいの里西小学校
佐々木 歩	教諭	札幌市立北光小学校
向井 早紀	教諭	札幌市立米里小学校
坪田 めぐみ	教諭	札幌市立美しが丘小学校
上田 隆之	教諭	札幌市立琴似小学校
児玉 麻知子	指導主事	札幌市教育委員会

【中学校】

丸山 未来	教諭	札幌市立啓明中学校
常富 雅人	教諭	札幌市立伏見中学校
磯 麻耶	教諭	札幌市立明園中学校
楠本 正義	教諭	札幌市立栄南中学校
一関 浩	教諭	札幌市立北都中学校
西島 明子	教諭	札幌市立清田中学校
芳村 ひとみ	教諭	札幌市立前田北中学校
上野 智恵美	指導主事	札幌市教育委員会

【高等学校】

佐藤 由季	教諭	市立札幌旭丘高等学校
沢出 晋也	教諭	市立札幌大通高等学校
中村 遼	教諭	市立札幌新川高等学校
黒井 憲	教諭	市立札幌開成中等教育学校
金子 京平	教諭	市立札幌平岸高等学校
泉 祐太朗	教諭	市立札幌清田高等学校
後藤 こずえ	教諭	市立札幌藻岩高等学校
佐々尾 知	教諭	市立札幌啓北商業高等学校
加世田 一憲	指導主事	札幌市教育委員会
牧野 弘幸	指導主事	札幌市教育委員会

アドバイザー委員

萬谷 隆一	教授	北海道教育大学札幌校
-------	----	------------

小・中・高等学校間の連携・接続を図る
「札幌市 CAN-DO Standard」活用ハンドブック

令和3年2月

発行者 札幌市教育委員会

札幌市中央区北2条西2丁目

電話番号 (011)211-3891

FAX 番号 (011)211-3862